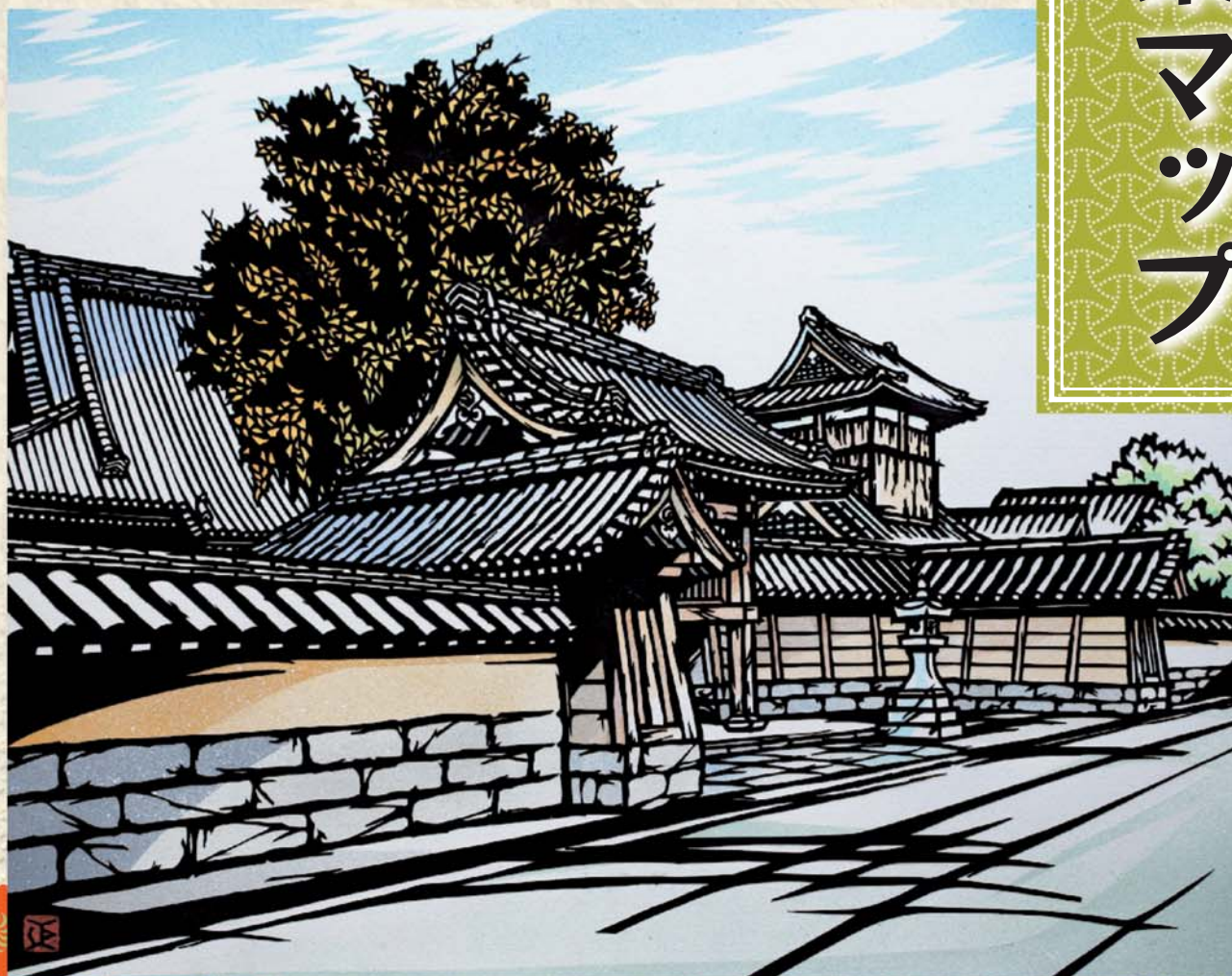


寺^じ内^{ない}町^{まち}散策マップ

紀州・ごぼう

～歴史ロマンが息づく町並み～



「本願寺日高別院」

8 御坊寺内町会館

御坊市の魅力を発信するスペースとして平成28年10月にオープン。1964年東京オリンピック誘致に尽力した御坊市の名誉市民第1号である故・和田勇氏の資料展示コーナーも併設している。



9 旧中川邸

横町の通りに面して主屋と蔵が並び、複雑に設けられた屋根の意匠に重層感が感じられる。窓外の格子は、板を曲面に彫りこむなど繊細な仕上げを行う。昭和初期に建築された優れた邸宅である。



10 横町の有田屋

“うだつ”風に工夫された屋号看板やショーウィンドウが、伝統的な和様建築にマッチしたお店。昔のペニヤ板で内装した店内にはガラス瓶や木製の陳列ケースが並び、大正頃の和菓子屋の雰囲気がいよい。



11 堀河屋野村

江戸時代の木造平屋造りの建物。本瓦の大屋根が覆い座敷窓を囲うベンガラ格子が長い伝統を伝えている元禄年間より造られている。江戸時代より造られている。江戸時代より造られている。江戸時代より造られている。



12 異邸

戦前に建てられた木造2階建。玄関庇や欄干の純粋な和の部分と鍛冶の洋の部分からなる和洋接合の建物である。塀にはこだわりの装飾を施す。



13 小竹八幡神社

江戸時代に、元宮の地から徳川頼宣の別邸であった蘭御殿跡に遷宮した。当社の祭神は菅田別命(応神天皇)・小竹大神等で、旧社地は、『日本書紀』所載の小竹祝にゆかりのある小竹宮跡といわれている。境内には蘭浦廻船衆の寄進した石灯籠や、明治時代の石づくりの時計台が残る。



御坊祭



四ツ太鼓

昔から「人を見たけりゃ御坊祭」といわれた日高地方最大の祭り。祭日は10月4日・5日で乗り子4名を乗せた四ツ太鼓が町を練り歩く。また国指定選択無形民俗文化財の「けほん踊」等が奉納される。

けほん踊り

獅子舞

紀州・ごぼう 寺内町散策マップ

～歴史ロマンが息づく町並み～



1 正宗屋酒店

昭和3年に完成した鉄筋コンクリート造2階建の建物。土間の床には亀甲型の目地が入り、柱や天井に施された漆喰の装飾はすばらしい。



2 小竹岩楠の顕彰像

南紀白浜温泉を開発した小竹岩楠の旧邸宅を活用し土産物店が平成28年にオープン。駐車場の一面に岩楠氏の胸像が移設されている。



3 旧華岡医院

戦後、華岡青洲の子孫が医院をかまえた。木造2階、大正～昭和頃の建物。道沿い正面上部をガラス戸で仕上げ、特に玄関の引違い戸は菱形の文様がセンス良くデザインされている。



4 日高別院

文禄4年(1595)浅野家重臣佐竹伊賀守の尽力によって蘭村と島村の荒地四町四方を得て堂宇を建立したのが始まり。文政8年(1825)に建立された本堂を中心に鐘楼・太鼓楼・山門・薬医門が立ち並び、真宗寺院としては紀南最大の規模をもつ。



5 志賀屋川瀬家

江戸時代に建てられたつし2階、平入の建物。左に玄関・土間があり座敷側の窓には格子が全面を覆い、軒下の塗り壁、正面左右に設けられた袖壁とともに落ち着いた町並みを見せてくれる。川瀬家は志賀屋という蠟燭問屋であった。



6 岸野酒造本家

木造2階の店は、大正8年に完成。敷地内には酒造に使われた江戸・大正時代の酒蔵や、酒米を蒸した竈にレンガの煙出、井戸が残る。



7 茶免の地蔵堂

延命地蔵尊を祀る。百日咳、カンムシ、寝小便に効あり、市民にはなじみ深いお地蔵さん。下川河川改修工事のため、現在の場所に移転している。



※イラストは移転前のものを使用しています。



14 日の出紡織のレンガ塀

創業は大正2年(1913)日高地方の産業革命のさきがけとなった。今は、200mのレンガ塀が残るのみ。

町並みの風景

東町 ひがし まち

歴史的な建物が残る通り。江戸末期から明治前期の商家、大正期の造り酒屋の蔵や店舗などが現存する。



① 上野山神具店
昭和初期のトガ普請本2階建て



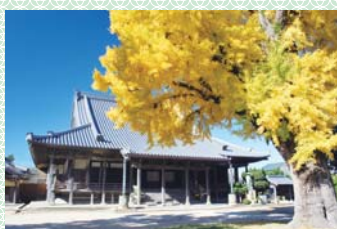
② 中松金物店
明治時代に建てられた店内の床下には防空壕が残る



③ 菌徹薬局
代々薬業を営む。底下の欄間に「大学目薬」・「命の母」など珍しい木製の金看板がある



④ 大黒屋 津本家
昔なつかしい手動ポンプが残る



⑤ 日高別院
本堂は、御坊市指定有形文化財。真宗寺院として紀南地方最大の規模である。太鼓楼は、御坊市指定有形文化財、江戸時代文政年間建築。大銀杏は、和歌山県指定天然記念物。樹齢約400年、県下第2の大銀杏は秋の紅葉が見事



⑥ 志賀屋 川瀬家
蠟燭問屋であった川瀬家



⑦ 岸野酒造本家
大正時代の建築

横町 よこ まち



⑧ 有田屋
レトロな看板が映える和菓子の有田屋

中町 なか まち



⑨ 旧町内最古の民家
江戸中期の面影を今に伝える



⑩ 堀河屋林業
国登録有形文化財
江戸時代の建築



⑪ 水害の碑
茶免の地藏脇に立つ昭和28年の紀州大水害を伝える碑



歴史

～廻船から大商工業都市に～

御坊寺内町は佐竹伊賀守の尽力で、文禄4年（1595）蘭浦の荒地四町四方を得、日高別院を建立したのがはじまりで、この前身となったのが古寺内にあったとされる蘭坊舎である。

江戸時代に入り、別院は西に向かう比井街道の起点となり、東に熊野三山参詣道の紀州街道が通る要地として、日高川河口を利用して廻船業がおおいに栄えた。坊舎周辺には蠟燭・酒・木材問屋や総屋・油屋・旅籠が軒を並ぶ。

明治・大正以降は白浜温泉を開発した小竹岩楠、御坊に戸田銀行・日高紡績を起こした戸田実が出て、日高川の水流を生かした水力発電や紡績・製材業が盛んとなり、和歌山市につぐ商・工業都市として発展、町並みも現在に見るような近代風の町に変わってきた。この地方一帯は、醤油・味噌の発祥地のひとつと言われる。伝統を生かした金（徑）山寺味噌・醤油やなれ寿司がつけられている。

町家の個性

溶け合う和の中の洋の意匠

御坊の町家は大正から昭和30年にかけての建築が多いといわれる。それらの建物の中には、江戸時代からの和の伝統の上に巧みにとり込まれた洋風の意匠や洋風建築を見ることができる。

洋の意匠



伝統的な建造物に似あうレトロなショーウィンドー
(中松金物店)

柱を飾るハイカラな漆喰の文様
(正宗屋酒店)



古川サイクルの内部応接室

昭和11年に建築された木造建物の2階に応接室を設けている。天井は一部カシュー仕上げ、天井板はコルク仕上げで、家具については、すべて造り付けとしている。



洋風蔵

旧中川家の敷地に建てられた木造2階外壁モルタル塗りの蔵。昭和初期の建築によく見られる漆喰塗りの蔵ではなく、洋風に見せた蔵は少なく貴重である。

オダレ

垂木の華隠し、もしくは日射しよけや雨よけとして用いられた。軒先空間を創り出している和の意匠である。



干木板

妻側に2つの板材を交差したもので、御坊以南の多雨地域では風雨で瓦が損傷するのを防ぐために考えられた意匠である。

和の意匠



紀州鉄道物語

御坊寺内町の町並み探検は紀州鉄道から

御坊町民の足として、また貨物の搬送のため、JR御坊駅と市街地を結ぶ紀州鉄道（旧名：御坊臨港鉄道）が開業したのは、昭和6年（1931）のことである。今はキテツ1型レールバスが総区間2.7kmを走り続けている。一時、日本一短い鉄道として有名となった。

この鉄道の設立の中心人物は、伊勢屋の当主田淵榮次郎である。彼は、さらに煙樹ヶ浜まで延長し、観光地として開発する構想を立てていたが、これは幻に終わった。



昭和46年頃の西御坊駅

御坊市観光地図



寺内町

大樹めぐり

- | | |
|----------|-----------|
| ① 足切地蔵 | ナギ・ムクロジ |
| ② 古田家 | クロガネモチ・クス |
| ③ 湯川神社 | クス |
| ④ 日高別院 | イチョウ |
| ⑤ 須佐神社 | ビャクシン |
| ⑥ 光専寺 | ビャクシン |
| ⑦ 市の花木 | ハマボウ |
| ⑧ 塩屋王子神社 | クス・ナギ |

参考文献

中西重祐「わかやまワクワク探検隊ー明治・大正・昭和たてもの物語」和歌山新報社2002
 和歌山大学システム工学部環境システム学科 都市・農村計画研究室ほか 「2006年度ー旧御坊町における町家外観調査報告書ー」

交通のご案内



自動車利用

(大阪方面から)
近畿自動車道(吹田JCT)
↓
阪和自動車道(松原JCT)
↓
湯浅御坊道路

約130km

御坊IC
(紀南方面から)
白浜町
↓
南紀白浜IC
↓
阪和自動車道
↓
御坊南IC

約40km

電車利用

(大阪方面から)
新大阪駅
↓
阪和線
↓
きのくに線
↓
御坊駅
(紀南方面から)
白浜駅
↓
紀伊田辺駅
↓
御坊駅

約1時間40分

約40分

※寺内町散策は、御坊駅から紀州鉄道を利用し、終点「西御坊駅」で下車されると便利です。



▲「紀伊国名所図会」日高御坊（日高別院）

御坊市(ごほうし)の地名由来について

御坊市は本願寺日高別院を中心として発展した町を核としている。

この日高別院は江戸時代においては日高御坊と称され、近世では御坊村という地名のもととなった。

明治時代になり町制の施行に伴い、「御坊町」となった。

昭和29年市制施行により周辺の町村合併で中核の「御坊町」から「御坊市」となり現在に至る。

浄土真宗の寺院の尊称である「御坊」を冠した行政上の市町村は国内唯一といわれる。

お問い合わせやガイド案内をご希望される場合は…

御坊市役所商工振興課・御坊市観光協会まで

〒644-8686 和歌山県御坊市藁350番地

TEL **0738(22)4111**(代表)／**0738(23)5531**(直通)

FAX **0738(23)5848**

ホームページアドレス <http://www.city.gobo.wakayama.jp/kankojoho/index.html>

2017年2月作成

